



## 学校教育相談の考え方を生かした 学級経営・授業展開のために



### 魅力ある学級づくりを推進しましょう

- すべての児童・生徒をわけ隔てなく認め、大事にする。
- 子供にとって分かる授業づくりに徹する。
- 魅力的な集団活動を取り入れる。
- 自己の個性を発揮できる場を設定する。
- 認め合い励まし合う集団を作る。
- 安心して通い、のびのびと活動できる場を設定する。
- 社会性を育てる活動の工夫をする。
- 自己肯定感・自己有用感の醸成に努める。



### 子供との平素の場面を振り返り、チェックしてみましょう

- 子供のつぶやきや発言、気付き等を活かした発問を心がけていますか。
- 発問の場面では、単語や「はい」、「いいえ」といった答えのみを導くことなく、オープンエンドクエスチョンの効果に留意し、子供との「対話」を意識していますか。
- 一方的な「教え込み」や「教え過ぎ」に注意し、子供には自分の言葉で考える時間を十分に与えていますか。
- 子供が誤った答えをした際、誤答の背景や考えた過程に着目し、再挑戦の機会を与える等のフォローを実践していますか。
- 自由な発想を尊重する際にも、無条件に認めることなく、そう思った理由や他者の意見や考えについての立場を積極的に引き出していますか。



## 外国人児童・生徒相談 受け付けています

都内に在住、在勤、在学する外国人の子供にかかわる教育相談を受け付けています。

<内容>

- ☆都立高校の進学に関すること
  - ☆学業に関すること
  - ☆学校生活に関すること など
- 情報提供や助言を行っています。

<受付日時>

毎週 金曜日：午後1時～4時

電話番号 **03-5800-8008**

<対象言語>

中国語、英語、韓国・朝鮮語

<相談対象年齢>

幼児から高校相当年齢

※電話による予約で、来所の相談も受け付けています。

ホームページには、  
都立高校への入学  
に関する情報も載  
っています！



東京都教育相談センター  
<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>



広報

# すこやかさん

第26号

平成21年11月発行



東京都教育相談センター

<http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>

〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3

TEL 03-5800-8545(代表) FAX 03-5800-8402

## 豊かな心、豊かなコミュニケーション、豊かな人間関係

東京都教育相談センター統括指導主事 岡部 君夫

### ■「先生、ノート!」—「ノートがどうしたの?先生はノートじゃないよ!」

職員室では、時々上記のような会話が子供と教師の間で交わされます。そして、子供が職員室を去った後、子供のコミュニケーション能力の低下や学力との関連性について話題となるのではないのでしょうか。

近年、子供の学力については、都道府県別のみならず、世界的な日本の順位までもが問題となっています。その指標の一つに、「生徒の学習到達度調査(PISA)」があります。日本の子供の「学力順位」は、参加初年の2000年に比してその三年後の2003年には各分野でそれぞれ順位を下げ、いわゆる「学力低下論」に拍車をかけました。PISA調査では、「読解力(Reading Literacy)」、「数学的リテラシー」、「科学的リテラシー」、「問題解決能力(2003年調査)」の調査分野がありますが、特に「読解力」における順位の低下が目立ち、文部科学省は翌年、「読解力向上に関する指導資料」を提示し、その向上を啓発しています。

そもそも、PISAの調査で示す読解力の定義は、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的な社会参加をするために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」であるとされています。この能力は、取りも直さず「読み、理解する力(=読解力)」とだけ定義することなく、「人の話をよく聞ける力」であり、「聞いて自分の気持ちや意見を伝えることができる力」に通ずる力です。これらの力は、今日強く求められる、「コミュニケーション能力」の根源であり、新学習指導要領においても、「伝え合う力」は引き続いて強調されています。

### ■求められる「コミュニケーション能力」

日本経団連の調査によれば、企業が新規採用選考時に重視す

る要素として、この、「コミュニケーション能力」が六年連続で一位に挙げられています。若者のコミュニケーション能力の不足を象徴する一つのデータです。コミュニケーション能力が低下した背景としては、言葉を重ねる必要が薄れた核家族化の問題や、少子化の弊害等がよく指摘されます。また、情報化社会にあっては、価値観の多様化が加速した結果、摩擦を超えた相互の真の理解が困難になり、その結果、「豊かな人間関係の構築」がなされにくくなっているのではないかと思います。

### ■豊かなコミュニケーション能力の育成が鍵

学校では、円滑なコミュニケーションがとれないばかりに、些細なことから大きなけんかになったり、知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまったりする事例は後を絶ちません。

指導の場面では相手の事や気持ちを考えず、自分勝手に一方的な言い分が増えているように感じます。目の前の子供のコミュニケーション能力についての理解とともに、発達段階に応じた豊かな人間関係構築への適切な援助が必要です。そして、子供たちに言葉のもつ大きな力や人としての温もりを体得させることが必要です。

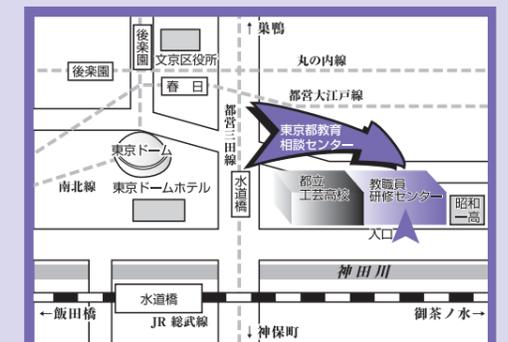
コミュニケーションは表面的には言葉のキャッチボールですが、本当に大切なのは心のキャッチボールであるはずで、豊かなコミュニケーションは、行き着くところ、豊かな心から生まれます。あらゆる教育活動の場面を通じ、意図的・計画的に子供の心を耕そうとする姿勢が不可欠です。また、平素から教職員が傾聴・共感的理解・受容などの教育相談的な態度を常に意識して指導することが基本となります。

今号は、「豊かな人間関係の構築」に向けて、教育相談の視点を基に、子供のコミュニケーション能力の育成について考えます。

## 相談のご案内

受付電話番号 **03-5800-8008**

- 電話相談/平日 午前9時から午後9時まで  
土日祝 午前9時から午後5時まで(年末年始等を除く)  
\*上記以外及び閉庁日は、留守番電話及び電子メールによる対応をしています。メールは、ホームページから入れます。  
<ホームページ> <http://www.e-sodan.metro.tokyo.jp>
- いじめ相談ホットライン/24時間対応 03(5800)8288
- 来所相談/平日 午前9時から午後5時まで  
\*電話でお申し込みください。  
\*立川出張相談室(立川市錦町6-3-1)においても応じています。
- 所在地/〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3



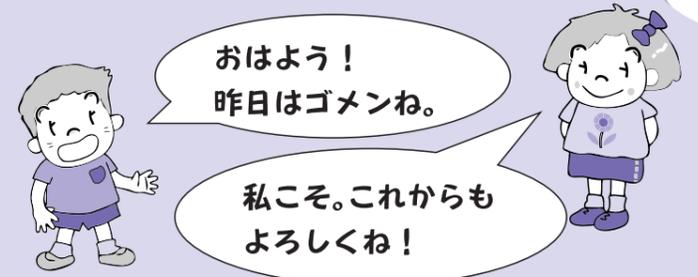
JR総武線・都営地下鉄三田線水道橋駅下車 徒歩2分  
東京都教職員研修センター内

# ～豊かな人間関係を築く～

## 心身の発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成

当センターに寄せられる相談の中には、対人関係のつまずきをきっかけにして、深く傷つき、結果として不登校等にいたってしまったというケースが少なくありません。

本号では、子供たちが豊かな人間関係を築く上で基本となる、心身の発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成について、紹介します。



おはよう!  
昨日はゴメンね。

私こそ、これからも  
よろしくね!

### 子供たちの心理（発達段階特有の心の内を理解しましょう）

### コミュニケーション能力育成のポイント

#### 学童期（小学生）

- 良いことや悪いことの判断に不安があり、親や教師の意見に依存する。
- 自分の感情や欲求を上手く表現できず、時に自己中心的に考える。
- 時に異性集団に対する拒否的言動を見せる。
- 勤勉であろうとするが、自分の能力に疑いを感じ始める。（特に高学年）



※ 教師にとって、学童期の人間関係は把握しにくいものです。子供同士で悩みを打ち明け合うほどの成熟した関係にいたっていない場合も多くあります。

※ 学童期においては、個人の発達に差が大きいことから、集団における一人一人の心理状態について、正しく見立てることが大切です。

- ◎ **集団の中では…** 子供一人一人の個性や良さ、潜在的な可能性を見出し、教師が支持して肯定することが大切です。
- ◎ **授業や特別活動では…** 時に自分本位で、固定的だったり、一面的であったりする子供の考え方やものの見方に対して、柔軟に他者の立場で考えさせる機会を意図的に多くもたせましょう。
- ◎ **伝わりにくいな、と感じる時には…** 教師の意図を理解させにくい際には、引用や寓話などを用いると効果的です。

#### 青年期（中学生・高校生）

- 自分の気持ちを上手くコントロールできない。
- 自分らしく振舞えない。
- 自分のことを分かってもらいたいが、見透かされたくない。
- 信頼できる仲間は家族よりも大切だと感じる。
- 他人が気になり、自分と比較していたずらに劣等感を感じてしまう。



※ 集団の中では、「自分」を演じなくてはいけなかったり、場面によって演じ分けたりすることで疲れていることも考えられます。

※ 自分について、他人と比較しての差異や長所を無理に見つけたり、それを表に出さなければ取り残されるかのように感じたりし、焦っている子供もいます。

- ◎ **学級では…** 日ごろから、\*アサーション（自分も相手も思いやれる自己表現）を意識させましょう。
- ◎ **不安や焦りを訴える子供には…** 自己肯定感を高め、自分に正直でいられるよう支援します。「人は人、自分は自分」、と思える気持ちは強く自分を支えます。
- ◎ **対人トラブルが発生したら…** 自分と異なる考えや意見と出会った際には、一方的に攻撃したり、回避したりすることなく、折り合いをつけたり、妥協をしたりする経験を積ませることが大切です。また、けんか別れ等をした後に、その関係を修復できた経験は自信となり、その後の対人関係をしなやかにします。

#### 教師のアプローチポイント

- ◎ 人間関係の構築に不安や悩みを抱える子供は、ありのままの自分を受け入れ、支えてくれる確かな信頼関係を希求しています。
- ◎ 気がかりな子供へアプローチする際は、子供の不安や悩みについて傾聴し、共感的な理解に努めることが大切です。そして、教師自らが当該の子供にとって、確かな支えとなることが重要です。
- ◎ 各教科における学習や行事、部活動等のあらゆる場面を捉えて、当該の子供が自分の良さを認め、自己肯定感を高められるように支援することが不可欠です。自己肯定感とは、自信となり、豊かな人間関係を築く際の原動力となります。教師はその際に、子供たち同士の絆が深まるよう、コーディネートに努めましょう。
- ◎ 子供は、自分なりの人間関係を構築しながら自らの人格を形成します。教師は自ら率先して人とかかわる姿を示すとともに、その場に周囲の子供たちを巻き込むことが効果的です。



#### \*アサーション(assertion)とは…

アサーションとは、自分と相手、さらに相互を大切にしながら、自分の主張や気持ちについて、その場に適した表現をすることを意味します。自分の主張だけを押し付けたり、必要な自己主張ができなかったりしては、豊かな人間関係は望めません。

- 自分のことより相手のことを大切にする自己表現
- 相手のことより自分のことを優先する自己表現
- ◎ 自分も相手も思いやれる自己表現